



In High Spirits!

第4信 ドイツから

ドイツ的職業意識を考察する

——初の日本人マイスターとして

大畠一成 (Dental Studio GmbH Rolf Herrmann)

「歯科技工は手工業である」というのが、ドイツにおける定義である。日本では特に職人の社会的地位が問われているせい、または医療の一環を担う者の誇りのためか、歯科技工士が職人であることを否定する傾向にあるようだ。12世紀以来の歴史をもつドイツの同職ギルド、そして Handwerkskammer (手工業会議所) は、価格統制および市場調整などを除いては、手工業を実務とする者の権利と保護を主張するという意味で中世以来本質的に大きな変化を見せていない。特に、手工業の総生産が商工業に次いで国内産業総生産第2位に位置している点からも、職人の政治的発言力の強さは想像しうるであろう。

職人の仕事は年々コスト高になる。手工業の質・耐久性、それに対する労働内容と労働時間が何よりも重要視されるからである。特に労働時間、材料コスト、一般経費率は原価計算を行うための要素として不可欠となる。歯科技工料金も例外でなく、保険診療の場合、各州から発行される歯科技工料金統一リストによって最低請求額が計算される（ダンピングは法的に禁止されている）が、プライベート（自費）診療については、労働時間、時間

給、労働に対する一般経費率、補償追加金、利潤の割増し、材料コスト、外交料金、付加価値税から換算したうえで請求原価が決定され、さらに労働工程が増加することから、その最終請求額は保険診療よりも約50～70%コスト高になる。

5年前の大幅な保険制度の改正に対処するためにも、ドイツ国内では自費診療促進の姿勢に切り換える必要性があった。保険制度改正後5年間のドイツの歯科技工レベルの進歩には目覚ましいものがある。自費診療請求の供給のためにはより高い仕事のクオリティと耐久性が要求されるからである。

日本と同様に天然資源に乏しく、悲劇的歴史を有するドイツが、技術開発研究の優先保護政策を行ったのは歴史的に有名だが、そのためには国民の知識と能力の向上を促進する必要がある。保険制度改正後のドイツ歯科界の政治的圧迫に対する戦略は、その民族の歴史をひも解くかのように行われたのである。

「日本人とドイツ人はよく似ている」といわれるが、それは本質的に間違いである。社会、生活、教育、職業、技術のどれを観察しても、その発想角度の違いに感嘆を禁じえないものがある。日本では最近、歯科技工士の歯科技工離れが目立っているようであるが、ドイツ的職業意識に照らして考察した場合、それはやむをえないことかもしれない。日本人は“愛職心”よりも“愛社心”を優先してしまう。労働指向の中心が“職”でなく“会

Kazunari OHATA : 1960年福岡県出身。1980年岐阜県立衛生専門学校歯科技工士学科卒業。同年同校研究生として勤務。その後、安田病院歯科勤務、サンデンタルラボラトリー勤務、東海歯科医療専門学校非常勤講師を経て1985年渡独。現在にいたる。1992年マイスター試験取得



●ドイツの寒い冬に、厚手のコートは必需品！

社”に向いていることから、プロ意識の向上が抑制されてしまう。そのため職場を変える場合、諸々の感情レベルの問題が発生する。

ドイツでは、“プロ意識”および“愛職心”が最も重要視されるため、“転職”によって技術の向上を図る。職場を変えることによって自分の技術と能力を磨くという理由からである。「転職歴」は職人にとって不可欠であるというのがドイツの一般論であり、これは本当の意味での“愛職心”につながると思う。

日本の会社は就業態度がよく、協調性のある人間を集めたがる。しかし角の立たない人間は限りなく“0”に近い。ドイツでは「沈黙は無能である」という思想が存在し、ドイツの企業内には、必ず何人か小言をいう人間がいる。しかし、この小言をいう人間が、ドイツの企業内では貴重な存在となっている。そのなかで適切なイニチアティブとアグメント（論証）の見識と能力をもつ人間が“管理職”となりうる。角の立つ人間たちをうまく統合し、その能力を最大限に発揮させる指揮モラルの能力が問われるわけである。

そのための学問をマイスター学校ではみっちり叩き込まれる。職業および社会教育学、経済学、社会学および法律学、簿記にいたるまで、マネジメントに必要な条件は一通り学ぶことができる。その根底には「その業界全体のレベルアップなしにはその会社自体の発



●恒例の全日制V S 夜間制マイスター学生サッカー一親善試合

展はない」という思想が流れている。

私は8年間日本を離れ、故国を冷静に見つめる機会と時間を得たことに感謝したい。そしていま私は、日本人マイスターとして自分の進むべき道をはっきり見すえようとしている。

LABO DATA

- 名称：Dental Studio GmbH Rolf Herrmann
 所在地：Benrather str. 6 a, 4000 Düsseldorf | Germany
 営業形態：有限会社
 主な取扱い業務：歯科技工全般
 スタッフ数：25人(歯科技工士は14人、うち歯科技工士マイスターは8人)
 スタッフの主な国籍：ドイツ
 就業時間：a.m.8:00～p.m.6:00 (または a.m.7:00～p.m.5:00)
 休日：週休3日制(金・土・日)
 その他有給休暇：5週間
 主な技工料金(1 DM=80円で日本円換算)
 <保険診療の場合>……最低の場合
 * 歯列のみの模型 約712円、分割模型 約1,130円、分割歯型(支台歯1本につき) 約1,269円、平均値咬合器セット 約1,089円(ここまでが補綴物製作前準備。計4,200円)
 * 鑄造冠 約7,038円+前述の4,200円=計11,238円
 * ポーセレン焼付け 約10,252円+鑄造冠代の11,238円=計21,490円
 その他各工程につき2回まで搬送費264円が請求できる。
 <プライベート診療の場合>……請求額自由
 ラボによりまちまちだが、保険診療よりも約50～70%高くなる。